

奈良県感染症情報センター

# 奈良県感染症情報センターについて

## 1. 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査は、平成 11 年 4 月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法)の大きな柱に位置づけられています。感染症患者発生の情報について、正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者へ的確に提供・公開することにより、感染症発生の予防や蔓延を防止することを目的に、医師等の医療関係者の協力をうけ、全国的に実施されています。奈良県でも、感染症発生動向調査の結果を迅速かつ的確に活用し、事前対応型の感染症予防対策とするため、奈良県感染症発生動向調査事業実施要綱、同要領に基づき、調査を実施しています。

## 2. 調査対象感染症

感染症発生動向調査の対象となる感染症は、一類感染症(7 疾患)、二類感染症(7 疾患)、三類感染症(5 疾患)、四類感染症(43 疾患)、五類感染症(48 疾患)、新型インフルエンザ等感染症(2 疾患)及び指定感染症(なし)です。(H27.9 現在)

平成 26 年 7 月には、中東呼吸器症候群(MERS)が指定感染症とされました。その後、平成 27 年 1 月には、前年より指定感染症とされていた鳥インフルエンザ(H7N9)とともに、2 類感染症に分類されています。また 9 月には、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘(入院例)、播種性クリプトコッカス症が 5 類全数把握対象疾患に加わりました。また薬剤耐性アシネトバクター感染症が定点把握対象から類型変更で、5 類全数把握対象に加わりました。

水痘は、元々小児科定点把握対象疾患のため、成人の水痘は把握できておらず、院内感染などの重症例も把握できていませんでした。このため、水痘ワクチンが平成 26 年 10 月から定期接種となるのに先立ち、サーベイランス体制が追加されました。

## 3. 奈良県感染症情報センター

奈良県感染症情報センターは、患者情報、病原体情報を収集・分析し、全国情報と併せて速やかに情報提供する事を目的として、奈良県感染症発生動向調査実施要綱により奈良県保健研究センター内に設置されています。センターでは、医療機関等から報告された感染症情報を国へ報告するとともに、疾患別、地域別などの疫学的解析を加えて、毎週の感染症情報(週報)として編集し、医療機関や教育機関、市町村関係機関等約 500 施設を対象に、電子メールにより還元するなどして、感染症予防の啓発に取り組んでいます。また、平成 26 年 5 月よりは、奈良新聞に感染症に関する記事提供を開始し、月 1 回(第二木曜)のコラム、毎週の感染症発生状況を掲載しています。さらに、国立感染症疫学情報センターが運営する薬局サーベイランス(<http://www.syndromic-surveillance.net/kanjyasuikai/>)に参加する奈良県薬剤師会のご協力により、会員向けホームページ(HP)中に、感染症情報センターHP へのリンク等作成いただくなど、感染症に関する情報提供の機会を増やしています。平成 26 年度中の感染症情報センターHP アクセス件数は、29,548 件(トップページのみ)と平成 25 年度(18,808 件)より増加しました。

感染症情報(週報)には、「外来状況」(隔週)や「保健研究センターだより」等速報性・専門性の高い記事等を掲載し、中でも、外来状況は、各地区の担当開業医師が自ら感じ取った情報をいち早く還元しており、地域における感染症の状況を伝えるものとして貴重であり、将来の感染症対策に活用されるものと考え、ここに掲載します。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 2 週 ( 1 月 6 日 ~ 1 月 12 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

!!! インフルエンザが流行シーズン入りしています !!!

### 今週の概要

- 小児科外来情報
- 月報告対象感染症 (性感染症・薬剤耐性菌感染症) 発生状況 (12 月 月報)

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	6.71	(1.32) →	↗	→	↘
2	インフルエンザ	4.70	(0.76) ↗↗	↗↗	↗↗	↗↗
3	水痘	1.47	(0.24) ↗	↗	↘	↗
4	RS ウイルス感染症	0.76	(0.71) ↘	↘	↘	↘
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.62	(0.09) ↗	↗	→	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの变化 **↗** 急増、**↗↗** やや増加、**→** 横ばい、**↘** やや減少、**↘↘** 減少

## ◆ 県内概況 ◆

### ◆ インフルエンザが流行シーズン入りしています ◆

第 2 週におけるインフルエンザの定点当たり報告数は 4.70 と前週 (0.76) 前々週 (0.98) より大幅に増加しました。今後さらに患者報告数が急増することが推測されます。1 月に入ってからには桜井保健所管内および葛城保健所管内でインフルエンザの集団発生があり、保健研究センターによる検査で A(H1N1)pdm09 型を検出しています。咳エチケットや外出後の手洗い等感染予防に努めるとともに、体調管理には十分注意しましょう。

## ❖ 小児科外来情報 ❖

### 北部地区 (矢追医院)

外来は左程多くない状態が続いている。インフルエンザは中学生以上でみられる。昨年提出の精密検査では、A(H1)pdm、A(H3)、B 型のすべてが検出されている。ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、増加傾向にある。昨年に続いて軽症で、発熱は少なく、嘔吐も 1 日程度、腹痛はあるが下痢のない例もよくみる。水痘と溶連菌感染症も増えている。

### 中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

外来数は例年のこの時期にしては多くない状況。インフルエンザは少しずつ増加中。すべて A 型。軽症であり、流行情報等の影響もあつてか発症数日経過の受診例もある。感染力も強くない様子と、抗体保有年齢層もあるのか家族中に蔓延する例も少ない印象。他に A 群溶連菌感染症、水痘が流行。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例があるがキック陽性例はない。ロタは今冬まだない。

### 南部地区 (県立五條病院小児科)

インフルエンザが急増している。高熱、呼吸器症状の A 型に加え、呼吸器症状のめだたない B 型も、今の時期にしては多数みられる。症状が下気道に及ぶ場合は、咳が遷延している。また、昨年より流行のつづいている水痘も、依然流行がつづいている。一部保育所では半数の幼児が水痘に罹患している。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 4 週 ( 1 月 20 日 ~ 1 月 26 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

!!! インフルエンザが注意報発令中 !!!

### 今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題 ~ 今シーズンのインフルエンザ流行と薬剤耐性ウイルス ~

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	21.24	(11.00) ↗↗	↗↗	↗↗	↗↗
2	感染性胃腸炎	8.85	(7.18) ↗	↗	↗	↗
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.21	(0.68) ↗	↗	↗↗	↗
4	水痘	1.00	(0.79) →	↗	→	↘
5	RS ウイルス感染症	0.56	(0.59) ↘	↘	↘	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去 5 週間平均数と比べたときの变化 **↗** 急増、**↗↗** やや増加、**→** 横ばい、**↘** やや減少、**↘↘** 減少

## ◆ 県内概況 ◆

### ◆ インフルエンザが注意報が発令中です ◆

県内全域で注意報基準値 (定点当たり 10) を超えています。葛城保健所管内では警報基準値 (定点当たり 30) を超えています。

- 第 4 週におけるインフルエンザの定点当たり報告数は県全体で 21.24 と、前週 (11.00) 前々週 (4.70) から倍々で急増しています。今後は、さらに流行が広がる可能性があるため、咳エチケットや外出後の手洗い、うがい、徹底など感染予防に努めるとともに、体調管理には十分注意しましょう。

### 《参考》

- インフルエンザ Q&A (厚生労働省)  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>
- 啓発ツール (厚生労働省)  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/keihatu.html>

## ❖ 小児科外来情報 ❖

### 北部地区 (矢追医院)

インフルエンザが流行しています。今年になってからは全て A 型の検出で、精密検査では A(H3 (A 香港型)) が大半ですが、A(H1)pdm (A 新型) も検出されています。溶連菌咽頭炎も保育園で流行しています。感染性胃腸炎はマスコミが大騒ぎしていますが、実際には減少しています。症状も軽症が大部分です。

### 中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

外来数はインフルエンザの増加に伴い増加。インフルエンザは殆ど A 型。ごく僅かに B 型がある。幼児から学童に多く、若い母親にも見られる。初期に嘔吐を伴う例がありノロウイルスと紛らわしい症状を呈する例もある。高熱が遷延しタミフル耐性が疑われる例もある。感染性胃腸炎は嘔吐が主のノロウイルス様の例が多く、ロタはない。他に水痘が流行中。

### 南部地区 (県立五條病院小児科)

インフルエンザは増加している。大部分が A 型だが、一部 B 型も見られる。市内保育所や小学校で学級閉鎖しているところもある。幼児の A 型インフルエンザでタミフル不応症例が低酸素血症となった。タミフル耐性にも注意が必要である。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 6 週 ( 2 月 3 日 ~ 2 月 9 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## !! インフルエンザが注意報発令中 !!

### 今週の概要

- 小児科外来情報
- 病原体(ウイルス) 検出情報 (1月)
- 気になる話題 ~ 感染性胃腸炎の流行状況と消毒法について ~

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			南部
		定点当たり	(前週)	増減	
1	インフルエンザ	24.72	(25.17)	↑	↑
2	感染性胃腸炎	5.79	(7.65)	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.00	(0.82)	↗	→
4	水痘	0.56	(0.65)	→	↓
5	RSウイルス感染症	0.38	(0.50)	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

#### ◆インフルエンザ注意報が発令中です。

県内全域で、注意報基準値 (定点当たり 10) を超えています。  
葛城保健所管内では警報基準値 (定点当たり 30) を超えています。

- 第 6 週におけるインフルエンザの定点当たり報告数は県全体で 24.72 と前週 (25.17) より減少しました。葛城保健所管内でも前週より減少しましたが、警報は継続中です。もうしばらくは流行の拡大防止のため、咳エチケットや外出後の手洗い・うがいの徹底、適度な湿度の保持など感染予防に努めましょう。

### ❖ 小児科外来情報 ❖

#### 北都地区(矢追医院)

外来患者数は 2 月に入っても例年よりは少ないように思える。インフルエンザは先々週から先週にかけてが奈良市ではピークであったようで、先週後半には減少に転じ、A型からB型が主流になってきている。このままだと流行は小さ目か? 保育園児を中心に溶連菌咽頭炎の流行が続いている。インフルエンザが減少すると、再び感染性胃腸炎が増えだした。ロタウイルスは未だのようです。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加。但しインフルエンザ一色という状況でなく例年に比べると多くない。インフルエンザは A 型が主で、B 型も混在。A 型治療直後に B 型に罹患例や、A と B が同時に陽性判定になった例もあった。A 型の中には発熱が持続しタミフル耐性と思われる例もある。B 型では嘔吐がありノロと誤っている家族や、37 度程度で陽性の例もあり感染拡大に留意が必要である。感染性胃腸炎はやや減少。その他高熱の感冒や扁桃腺炎があるが、登録疾患は少ない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザの流行が続いています。A 型が多数を占めていますが、市内 D 地区や M 小学校では B 型が流行しています。発熱再燃例や咳嗽遷延例では肺炎等の合併がみられます。また、入院中で基礎疾患のある 94 歳女性がインフルエンザ罹患中に死亡、高齢者や乳児では注意が必要です。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 8 週 ( 2 月 17 日 ~ 2 月 23 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## !! インフルエンザが注意報発令中 !!

### 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	18.17	(19.39)	→	→	→	→
2	感染性胃腸炎	3.29	(3.74)	→	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.97	(0.91)	→	→	↗	↗
4	水痘	0.76	(0.71)	→	→	↗	↗
5	RSウイルス感染症	0.56	(0.62)	→	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

#### ◆インフルエンザ注意報は継続中です。

定点当たりの患者報告数は減少が続いていますが、まだまだ流行しており、注意報は継続しています。引き続き注意が必要です。手洗い・うがいの徹底、咳エチケットなど基本的な感染予防に努めましょう。

### ◆ 子ども予防接種週間について

- 平成 26 年 3 月 7 日は「子ども予防接種週間」です。この時期は、4 月からの入園・入学に備え、接種もれを見直す良い時期と考えられます。この期間中には、協力医療機関等において、土・日曜日、平日の夜間に予防接種を行うとともに、種々の予防接種の相談に応じていただければ幸いです。詳しくは、お住まいの市町村の予防接種担当課へご相談ください。
- 《参考》 <http://www.pref.nara.jp/17291.htm> (保健予防課)

### ❖ 小児科外来情報 ❖

#### 北都地区(矢追医院)

直近 2 週間はインフルエンザの流行は徐々に収まってくれていましたが、今週に入り再び増加してきました。B 型が主体ですが A 型も多く検出されています。感染性胃腸炎は小児では少なくとも 2 人、成人でみられます。溶連菌咽頭炎が保育園児を中心に流行が続いています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はやや減少傾向。インフルエンザは減少しつつあり。A 型も混在しているが、B 型が主で軽症。嘔吐や腹痛を伴う例もありノロを懸念して来院の例もある。タミフル耐性を疑う遷延例も少ない。アデノ様の例が多いがキットで陽性に出にくい印象。他に水痘、流行性耳下腺炎、感染性胃腸炎があった。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザの流行が落ち着いてきました。春の胃腸炎の流行はまだみられません。普通感冒中心でしたが、雪の影響で患者数は少なめでした。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 10 週 ( 3 月 3 日 ~ 3 月 9 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 定点把握対象疾患報告状況(2月報)

**!! インフルエンザ注意報発令 !!**

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	15.44	(19.43)	↓	↗	↗	→
2	感染性胃腸炎	4.18	(3.38)	↑	↗	↗	→
3	水痘	0.74	(0.50)	↑	↗	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	0.62	(0.76)	↓	↗	↗	↗
5	RSウイルス感染症	0.29	(0.32)	↓	↗	↗	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

#### ◆ インフルエンザの注意報は継続中!

インフルエンザは、まだまだ流行しており、注意報は継続中です(定点当たりが10を下回るまで)。手洗い、うがいの徹底、咳エチケットなど基本的な感染予防に努めましょう。

#### ♥ 風しん・麻しん(はしか)のワクチン接種はすすんでいますか?

▲ 風しんは、春から流行が始まります。風しんは妊婦が罹患することで、胎児に障害が残ることが最も懸念される病気です。一昨年から大流行で、流行の中心となったのは大人の男性です。妊娠するのは大人の女性です。**ワクチン接種が急務なのは、大人なのです。**市町村がワクチン接種費用を補助する制度は、今年3月末日までです。対象者は、この機会に必ず接種してください。(市町村により対象者が異なりますのでお問い合わせください。)

▲ また他府県で、麻しん(はしか)が報告されています。麻しんも風しんと一緒に混合ワクチンが接種できます(MR ワクチン)。麻しんは感染力が強く、年齢にかかわらず命に関わる重篤な感染症です。忘れずに、接種してください。

### ♣ 小児科外来情報 ♣

#### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザの再流行はやっと落ち着いてきました。当院での今シーズンのインフルエンザ検出状況は、1月はA/H3、2月中旬はA/H1pdm(新型)、2月後半からはB型が主流でした。B型では発病初期に熱発に嘔吐を伴う例が散見されます。

感染性胃腸炎は、乳幼児はほとんど無く10才以上成人でみられます。流行していた溶連菌咽頭炎も沈静化しています。10月から定期接種化が報じられている水痘が増えました。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数はインフルエンザの減少とともにやや減少傾向。  
インフルエンザはAは激減し、B型が主流となった。症状は軽症経過で微熱や倦怠感のみで数日経過した例もあった。嘔吐、腹痛などの症状を伴う例がやや多く、またタミフル耐性例も少ない印象。

感染性胃腸炎はノロウイルス例が多いが検査実施のうち陽性例はなかった。ロタは全く冬は見られなかった。RSウイルスが3ヶ月乳児は紹介入院した。その他水痘、流行性耳下腺炎、A群溶連菌感染症が小流行。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザはさらに減少。A型の減少が目立つため、割合としてはB型が多くなった。  
下痢・嘔吐の胃腸炎が散見されたが、迅速検査ではノロウイルス、ロタウイルスは陰性で対症療法で軽症に経過した。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 12 週 ( 3 月 17 日 ~ 3 月 23 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

**!! インフルエンザ注意報発令 !!**

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	14.54	(17.65)	→	↗	↗	→
2	感染性胃腸炎	2.79	(3.50)	↓	↗	↗	→
3	水痘	1.06	(1.09)	↗	↗	↗	↗
4	A群溶連菌咽頭炎	0.94	(0.74)	↑	↗	↗	↗
5	咽頭結膜熱	0.41	(0.56)	↑	↘	↘	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

#### ◆ インフルエンザ! まだまだ注意が必要

先週よりは減少していますが、それでも例年より高いレベルで推移しています。人混みではマスクを着用し、帰宅後の手洗いやうがいを心がけましょう。

#### ◆ 春はロタウイルスの季節です

春先からはロタウイルスによる胃腸炎(嘔吐下痢症)が流行します。便が白くなるロタウイルスは、ノロウイルスと同様に感染力が強く、特に乳幼児で流行し、入院加療を要することがあります。

ロタウイルスは、ノロウイルスと異なり、ワクチンにより免疫を獲得することができ、重症化を防いだり発症を抑えることができます。

感染を広げないようにするには、オムツの適切な処理、手洗いの徹底などが必要です。オムツを交換するときには使い捨てのゴム手袋などを使い、捨てる場合はポリ袋などに入れます。手洗いは指輪や時計をはずし、せつけんで30秒以上もみ洗いします。衣類が便や吐物で汚れたときは、次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤)につけおき消毒した後、他の衣類と分けて洗濯しましょう。ロタウイルスにはアルコールなどの消毒薬ではあまり効き目がありません。

《ロタウイルスに関するQ&A》

<http://www.mhwh.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rotavirus/index.html>

### ♣ 小児科外来情報 ♣

#### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザは減少してきました。ほぼB型で症状は軽いです。春休みに入りますから今後さらに減少が見込まれます。例年通り、喘鳴と弛張熱のRSウイルス気管支炎の幼児が保育園で増えてきました。昨年の流行で感染した子の2度目の感染例をよくみかけます。症状が軽くなったかはあまり判りません。溶連菌咽頭炎の流行も続いています。保護者も同時に感染している例もあります。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は横ばい、インフルエンザの減少の割にはそう減少していません。  
インフルエンザはA型が殆どなくなり、B型が主流。症状は軽症で保護者もインフルエンザと思っていない例も多い。乳児でRS気管支炎が増加、高熱や喘鳴の強い例もある。

A群溶連菌感染症が流行、水痘、流行性耳下腺炎も小流行。  
感染性胃腸炎は嘔吐が主のノロウイルスの例が多いが検査実施での陽性例はなかった。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザAは減少。逆にB型が増加している。高熱は1~2日と持続は長くないが、一度解熱してから再び熱が出る見も、治療するまで注意が必要である。  
胃腸炎も増加、ロタウイルス陽性例もみられた。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 14 週 ( 3 月 31 日 ~ 4 月 6 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報 海外渡航者の麻疹感染者が急増しています
- 定点把握感染症 定点把握感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)3月報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	4.83	(7.52)	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	3.44	(3.53)	→	→	→
3	水痘	0.74	(1.24)	↓	↔	↔
4	突発性発しん	0.44	(0.24)	↑	↑	↑
5	A群溶連菌咽頭炎	0.41	(0.53)	↓	↓	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少流行** (疾患毎に、基準値を定めています。) **散発**  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↔**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの患者数も順調に減少しており、全体的に患者数は少ない状態です。例年この時期には、春の感染性胃腸炎患者が増加しますが、ロタウイルスのワクチン接種が積極的に実施されたためか、この時期としては、これまでに患者数が少なくなっています。

### ◆ これからお母さん・お父さんになる人の方々 また その周りの方々 ◆

風しんは、春から夏にかけて、これから流行が始まります。昨年の大流行時にワクチン接種を受けていない方で、これまでワクチン接種歴・風しん罹患歴の無い方は、今年こそ必ずワクチン接種を受けてください。また、お母さんになる人がワクチン接種してはいない、というものではありません。周りの人が持ち込まない・増やさないためにも、周りの方々(親族・同僚)のワクチン接種もお願いします。

なお、**風しん**と**麻疹**(はしか)は、同時に混合ワクチン(MR・ワクチン)で接種できます。海外帰りの麻しん(はしか)患者が増加しており、また、そこから国内で拡がりつつあります。麻しん(はしか)は感染力が強、ワクチン接種していないと、必ず感染します。麻しん(はしか)の患者が増加しているのが、ワクチン接種率が低いとめとすれば、同時に接種できる風しんの接種率も十分ではないかもしれません。昨年度のような大流行起こさないためにも、生まれてくる赤ちゃんのためにも、ワクチン接種しましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

春休みとなり外来患者数は徐々に減少してきました。インフルエンザは先々週までは流行状態にあったが、先週には一気に減少し、B型が散見される程度です。感染性胃腸炎も少なく、ロタウイルスを疑わせる症状の乳幼児はまだまだ少ない。2年前からのワクチンの効果が出てきたかもしれない。水痘が保育園児を中心に流行してきた。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はインフルエンザの減少、春休みにより僅かに減少。インフルエンザはかみなり減少したが、まだA型の5才男児例が1例あった。

発熱の例でアデノ様咽頭炎の例が多いが感度の問題があるのかキット陽性例はない。

小流行であったRSは今週になって減少。感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例があるが、キットでは陰性。ロタは予防接種の効果か今冬は殆どなかった。

他に流行性耳下腺炎、水痘、A群溶連菌感染症があった。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザB型の流行も減少してきた。A型は殆どみられない。ウイルス性胃腸炎は増加、便性はロタウイルス様だが、迅速検査陰性例では対症療法で比較的軽い経過をとっている。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 16 週 ( 4 月 14 日 ~ 4 月 20 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 定点把握感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)3月報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	感染性胃腸炎	6.06	(5.03)	↑	↑	↑
2	インフルエンザ	4.57	(3.70)	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.65	(0.71)	↑	↑	↑
4	咽頭結膜熱	0.97	(0.68)	↑	↑	↑
5	水痘	0.85	(0.94)	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少流行** (疾患毎に、基準値を定めています。) **散発**  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↔**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は、例年よりは低いレベルで推移していますが、増加しています。インフルエンザはほぼ横ばいで、例年より多めで推移しています。A群溶連菌咽頭炎が北部で増加、学童期の患者報告が多くなっています。また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

また、先週に続き咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。特に葛城保健所管内での増加が目立っています。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

新学期が始まり、一旦減少した感染性は増えてきました。インフルエンザもB型が小学校高学年から成人にみられます。感染性胃腸炎も同傾向ですが幼児ではロタウイルスが検出されています。溶連菌咽頭炎も保育園児から小学校で増えています。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

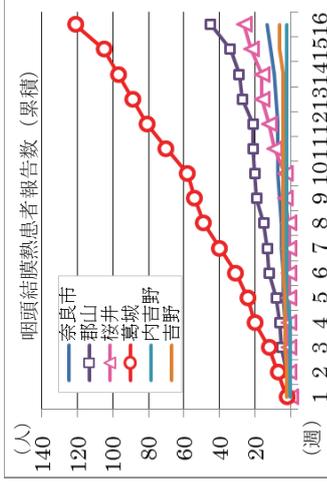
外来数は普通。インフルエンザが再び増加している。殆どB型であるがA型も見られる。年齢は幼稚園から成人までポツポツ見られ、集団感染の様子は伺えない印象。症状は軽症ではあるがやはり通常の感冒に比し倦怠感など全身症状を伴う。

感染性胃腸炎は嘔吐が主のノロ様が多いが検査を実施する例は少ない。

その他流行性耳下腺炎、水痘が少し。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザは殆どみなくなった。例年流行するロタウイルス胃腸炎も散見されるのみ。咽頭発赤が強く高熱が1~2日続く咽頭炎がやや多い。一部にアデノウイルス、溶連菌迅速検査陽性例があるが、大部分は陰性で対症療法のみで軽快している。



# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 18 週 ( 4 月 28 日 ~ 5 月 4 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり (前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.56 (8.21)	↗	↗	↗	↘
2	インフルエンザ	1.61 (3.76)	↘	↘	↘	↘
3	水痘	1.38 (0.65)	↗	↗	↗	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	0.97 (1.32)	→	→	→	↘
5	咽頭結膜熱	0.53 (0.71)	→	→	→	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの増減、**↗**急増、**↗**増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザは、定点当たりの数値が依然として1.0を上回っており、まだ注意が必要です。感染性胃腸炎は減少傾向です。  
水痘(みずぼうそう)の定点当たりの患者数が奈良市保健所管内で1.00→3.43、桜井保健所管内で0.29→2.14と増加しています。  
水痘は空気を介して感染します。また、病原体が水泡(水ぶくれ)にいますので、接触感染もします。水痘の予防には発症者との接触をさけることが重要です。また、水痘にはワクチンがあります。1歳以上で受けられますが、任意接種ですのでかかりつけの医師に相談して下さい。水痘にかかったら、仕事や学校を休んで、通院以外の外出は控えて下さい。

### ♣ 小児科外来情報 ♣

#### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザは小児ではほとんど無くなったが、中学生以上成人では流行しているところはまだみられる。B型が多いがA型も検出されている。  
インフルエンザの流行時に減少していた感染性胃腸炎が再び流行してきた。ロタウイルスは無く、ノロウイルスと思われる。水痘も流行が始まっている。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はこの時期にしては多い。  
インフルエンザはまだ小流行中。殆どはB型であるが、A型も混在。  
幼稚園では先生も感染して休んでいるという談話あり。  
感染性胃腸炎も小流行中。嘔吐が主のノロ様で経過は短く軽症。  
A群溶連菌感染症が僅かずつ見られる。  
ヘルパンギーナが1例あった。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザはほとんどみられなくなった。例年流行するロタウイルス胃腸炎も少ない。  
朝夕の気温変化に伴う体調不良と思われる普通感冒が多い。なかに高熱を出す咽頭炎があるが、インフルエンザ、アデノの迅速検査は陰性が多い。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 20 週 ( 5 月 12 日 ~ 5 月 18 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 定点把握感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)4月報

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり (前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	10.94 (7.00)	↗	↗	↗	↗
2	A群溶連菌咽頭炎	2.21 (1.18)	↗	↗	↘	↘
3	インフルエンザ	1.06 (1.13)	↘	↘	↘	↘
4	咽頭結膜熱	0.85 (0.82)	→	→	→	↗
5	水痘	0.74 (0.91)	↘	↘	↘	↗

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの増減、**↗**急増、**↗**増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザは、定点当たりの数値が依然として1.0を上回っています。A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の定点当たりの数値が上昇しました。特に、奈良市保健所管内で急増しました。咽頭結膜熱は横ばいで推移しています。  
感染性胃腸炎は、県内6保健所管内全てで定点当たりの数値が上昇しました。21週(5月19日～)に入ってから保健所から保育所や幼稚園で発生した胃腸炎集団事例の原因究明調査の依頼が保健研究センターに数十例寄せられました。調査の結果、胃腸炎の原因ウイルスであるノロウイルスやA群ロタウイルスが検出され、集団生活の場では依然としてウイルス性胃腸炎が流行しているようです。

### ♣ 小児科外来情報 ♣

#### 北部地区(矢追医院)

GW後、患者数は増加したが、その後は落ち着いている。ノロウイルスによると思われる感染性胃腸炎が再び流行したが、その後減少してきた。ロタはみられない。水痘やおたふくかぜが徐々に増加し、溶連菌咽頭炎が保育園児と小学校低学年及びその家族で流行になっている。ここ2週手足口病が幼児で見られた。発疹は小さい。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は減少。  
インフルエンザがごく僅かで見られる。  
幼稚園児でヘルパンギーナが見られるようになった。  
感染性胃腸炎が流行、年長児ではノロウイルス様の嘔吐例が多い。  
その他の登録疾患は今のところ少ない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザB型の小流行がみられ、学級閉鎖も1校あった。胃腸炎も増加するも、ロタウイルス感染は少なく、嘔吐中心の軽症例が多い。ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、手足口病等、夏カゼが少数ながら見られた。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 22 週 ( 5 月 26 日 ~ 6 月 1 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	10.15	(9.88) →	→	↗	↑
2	A 群溶連菌咽頭炎	2.26	(2.00) ↗	↑	↗	→
3	水痘	1.26	(0.82) ↗	→	↑	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.76	(0.88) →	→	→	↑↑
5	突発性発しん	0.35	(0.50) →	→	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

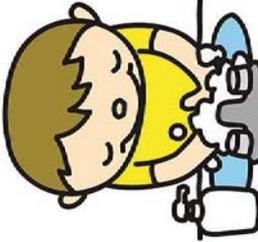
インフルエンザは、定点当たりの患者報告数が流行の目安となる 1.0 を 2 週連続で下回り (今週 0.28)、流行は終息していると考えられます。ただし、小児科外来情報によると、地域的な小流行は続いているようです。

感染性胃腸炎が、このところ高いレベルで推移しています。現在の患者報告数は、例年の秋～冬にノロウイルスによる胃腸炎がピークを迎える頃の患者数に相当します。予防のため、手洗いを励行しましょう。特に食事前やトイレ後の手洗いは大切です。

これから暑くなると、こどもの夏の感染症 (手足口病・ヘルパンギーナ) が流行してきます。ともに、6 月に入ると急増してくる疾患です。タオルの共用で感染することもあり、また、浴った後も病原体は便中に排泄されています。元気になってもらっては、トイレ後の手洗いなど注意が必要です。

手洗いは、感染症予防の基本です。こまめな手洗いを心がけましょう。

◆ 手洗いの手順リーフレット ~ 厚生労働省ホームページ ~  
[http://www.mhlw.go.jp/topics/kyokuchu/dl/link01-01\\_leaf02.pdf](http://www.mhlw.go.jp/topics/kyokuchu/dl/link01-01_leaf02.pdf)



## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北都地区 (矢追医院)

インフルエンザが中学生以上で引き続き小流行がみられる。全て B 型で症状は軽く、微熱程度が続きインフルエンザに気づかず登校し感染を拡大している。

感染性胃腸炎は細菌性とウイルス性が半々で全年齢にみられる。溶連菌咽頭炎が大流行していたが、沈静化してきた。水痘の流行が保育園児で流行している。

### 中部地区 (岡本内科子どもクリニック)

外来数はそう多くない。

インフルエンザは見られなくなった。咽頭発赤軽度の軽症の夏風邪が多い。

感染性胃腸炎が流行中。嘔吐が主のノロウイルス様、なかに 40℃ の例もある。

ロタウイルスは今冬殆どなかった。ワクチンの効果か?

水痘が流行中。他に A 群溶連菌感染症が少し。

### 南部地区 (県立五條病院小児科)

感染性胃腸炎の流行が続いている。ロタウイルス胃腸炎が多いが、ノロウイルス様嘔吐症もみられる。

また、咳嗽は乏しいが咽頭が高度発赤し高熱の咽頭炎が増加してきている。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 24 週 ( 6 月 9 日 ~ 6 月 15 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより (6 月) ~ 時季外れの感染性胃腸炎 ~

## ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	4.74	(6.03) →	↓	→	↗
2	A 群溶連菌咽頭炎	1.76	(2.29) →	→	→	←
3	水痘	1.26	(1.00) ↗	↑	→	↓
4	咽頭結膜熱	1.15	(1.09) ↗	↑	↓	↑
5	ヘルパンギーナ	0.94	(0.47) ↑↑	↑	↑↑	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

## ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は少し減少し、例年並みの患者数で推移しています。

A 群溶連菌咽頭炎は全体的には減少していますが、奈良市保健所管内では高いレベルを維持しています。咽頭結膜熱も例年より高いレベルで推移しており、奈良市、郡山、吉野保健所管内で多く、特に奈良市保健所管内では、急増しています。

ヘルパンギーナが増加、とくに葛城、吉野保健所管内では急増しています。

A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナはどれも、飛沫感染 (患者のくしゃみのしぶきなど) や、接触感染 (握手、タオルの共用など) から感染します。感染予防の基本は、手洗いとうがいです。また、咳エチケット (マスクする、咳・くしゃみをすると口を覆い飛沫を飛ばさないようにする) を心がけましょう。

## ◆ 小児科外来情報 ◆

### 北都地区 (矢追医院)

外来患者数は少なくなっている。6 月にインフルエンザは無くありません。感染性胃腸炎もウイルス性はほとんど無く、溶連菌咽頭炎も一服した感があります。咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、手足口病といったなつかせがそろそろでてきています。

### 中部地区 (岡本内科子どもクリニック)

夏外来数は減少傾向。インフルエンザは3週前から見られなくなりました。

咽頭結膜熱が流行、検査キットで陽性に出にくい眼充血を伴いアデノウイルスと思われる。

ヘルパンギーナが僅かづつ見られるようになった。

感染性胃腸炎は嘔吐を主とするノロウイルス様か流行。細菌性を疑う例は少ない。

ロタウイルスは今冬ほとんどなかったがワクチンの効果か。

A 群溶血性連鎖球菌感染症は減少。その他水痘が少し。

### 南部地区 (県立五條病院小児科)

ロタウイルス胃腸炎はほとんど発生なく、嘔吐のみの胃腸炎が散発している。また、咽頭発赤のみ (嗽口蓋に小紅斑を伴う場合あり) で、咳嗽・鼻汁を伴わない熱性疾患が増加。例年の夏風邪に比し、全身状態は良好で今のところ髄膜炎合併症はない。

# 奈良県感染症情報

平成26年第26週(6月23日～6月29日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

■小児科外来情報

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	南部
		定点当たり	(前週)		
1	感染性胃腸炎	3.65	(5.09)	➡	➡
2	ヘルパンギーナ	2.88	(1.76)	⬆️	⬆️
3	A群溶連菌咽頭炎	1.29	(1.41)	➡	➡
4	咽頭結膜熱	0.97	(1.00)	➡	➡
5	水痘	0.62	(0.79)	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆️**急増、**⬆️**増加、**➡**横ばい、**➡**やや減少、**➡**減少

### ◆県内概況◆

ヘルパンギーナが3週連続で急増しています。昨年は同時期に流行する手足口病の流行によりヘルパンギーナは目立ちませんでした。今年はやや早い時期から増加が始まっています。今週は1歳が最も多く、4歳までで8割を占めました。

ヘルパンギーナは発熱や口の中に水疱性の発疹ができる疾患で、夏かぜの代表的なものです。発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口の中の痛みにより水が飲みにくくなって脱水症を起こすこともあるため、子どもの様子に注意が必要です。

また、咽頭結膜熱も毎週一定数みられます。咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、プールで水を介して直接結膜にウイルスが侵入して感染することからプール熱とも呼ばれます。これから夏本番を迎え、プールで遊んだり人混みの中へ出かけることも多いかと思えます。感染者との密接をできるだけ避け、手洗い・うがい・励行するなど、感染症対策を心がけましょう。

### ♣️小児科外来情報♣️

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数は感染症が少なく減少している。感染性胃腸炎はウイルス性がほとんどみられず、細菌性が中学生以上に僅かにみられる。大流行していた溶連菌咽頭炎も減少している。替わって水痘となつたかぜが増加してきた。ヘルパンギーナが主で、手足口病もあるが発疹は小さい。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は曜日によって変動があるが減少傾向。高熱、軽度咽頭発赤の夏風邪が流行中。1歳、4歳の兄弟のアデノ例があり高熱遷延、結膜炎遷延のため紹介入院の例があった。ヘルパンギーナは少ない。手足口病も見られない。感染性胃腸炎は嘔吐を伴い、下痢が軽症でウイルス性の様子。その他A群溶血性連鎖球菌感染症が少し。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

ヘルパンギーナを主として夏風邪が増加。高熱は1～2日でおさまるが食欲不振、頭痛が伴う。手足口病の流行はない。嘔吐・中心の胃腸炎も多く、食中毒との鑑別が必要。また屋外(南部は農地・山が多い)ではマダニ咬傷が時々受診、SFTSの合併はないが腋窩リンパ節腫脹が1例あった。

# 奈良県感染症情報

平成26年第28週(7月7日～7月13日)  
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

■小児科外来情報

■気になる話題 ~夏の子ども感染症にご注意:ヘルパンギーナ、手足口病~

### ◆定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		増減	北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)				
1	ヘルパンギーナ	6.21	(5.03)	⬆️	⬆️	⬆️	⬆️
2	感染性胃腸炎	2.12	(3.06)	➡	➡	➡	➡
3	A群溶連菌咽頭炎	1.18	(1.06)	➡	➡	➡	➡
4	咽頭結膜熱	0.97	(0.85)	➡	➡	➡	➡
5	水痘	0.41	(0.88)	➡	➡	➡	➡

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆️**急増、**⬆️**増加、**➡**横ばい、**➡**やや減少、**➡**減少

### ◆県内概況◆

#### ◆県全体でヘルパンギーナが警報開始基準値を上回りました

先週に引き続き、ヘルパンギーナがさらに増加しており、今週は県全体で警報レベルに到達しました。(警報レベル開始基準値は疾患ごとに定められています。)特に奈良市保健所管内では、2週間連続で報告数が増え、注意が必要です。患者年齢は4歳までで大半を占めています。

近隣府県でも報告数の増加が続いており、今後しばらく流行が続くと思われます。ヘルパンギーナだけでなく、咽頭結膜熱も、例年より高いレベルで推移しています。昨年、同時期に流行した手足口病は、今年は低レベルで推移しています。

感染予防のために感染者との密接な接触を避けることにも、帰宅後のうがい・手洗いを習慣づけ、体調不良を感じたら早めに医師の診察を受けてください。また、体調が回復してもウイルス排出はしばらく続きます。トイレの後やおむつの交換後は石けんによる手洗い・消毒を心掛けましょう。

### ♣️小児科外来情報♣️

#### 北部地区(矢追医院)

ほぼ、夏風邪のみの状態で患者数は減少している。突然の39度前後の発熱と頭痛と軽度の腹痛を訴え、嘔気と1～2回の嘔吐を伴うが下痢症状がなく、咽頭所見は軽度の点状発赤を僅かにみられる『いわゆるつかぜ』が多く、次いで同様の発熱と頭痛を伴う水泡や比較的小さい口内炎をみとめるヘルパンギーナがある。咽頭結膜熱は減少しており、今シーズンは手足口病は少ない。その他伝染性紅斑や水痘が流行している。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。短期の発熱、咽頭中等度発赤の夏風邪が多い。アデノ様であったも検査陰性例が多い。ヘルパンギーナも流行中。熱と舌尖に有痛の小さい白点を認める例があり、数年前から少しずつ観察されている。A群溶連菌感染症も小流行。感染性胃腸炎はノロ、ロタは見られなくなったが下痢例は少しづつ流行。類だけの発疹で確定診断にいたらなかった伝染性紅斑様の例が1例あった。手足口病はみられない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

咽頭発赤、高熱1～2日の夏かぜが多い。症状のはじめに嘔吐、後半に下痢や発疹の伴う例もみられる。ヘルパンギーナの流行も続いているが、手足口病は少ない。鼻汁、咳嗽の感冒は冷房によるものか。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 30 週 ( 7 月 21 日 ~ 7 月 27 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	ヘルパンギーナ	4.26	(6.26)	→	→	→	
2	感染性胃腸炎	1.29	(1.68)	↓	↓	↓	
3	咽頭結膜熱	0.65	(0.74)	→	→	→	
3	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(1.15)	→	→	→	
3	水痘	0.65	(0.94)	→	→	↓	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況

**ヘルパンギーナ**は先週よりやや減少しましたが、報告数の多い状況が続いています。県全体では依然として警報発令中です。今週は1歳代の患者が最も多く、4歳までで8割近くを占めました。  
**引き続き**、感染者との密接な接触を避けることにも、うがいや手指の消毒を励行してください。  
**なお**、毎週一定程度みられる水痘(みずぼうそう)は、水痘帯状疱疹ウイルスというウイルスによって引き起こされる疾患です。発熱と発疹が主症状で、感染経路は飛沫感染、接触感染です。9歳以下での発症が9割程を占め、大人が発症した場合は重症化のリスクが高いといわれています。現在国内では乾燥弱毒性生水痘ワクチンが用いられており、平成 26 年 10 月 1 日より、定期接種が開始されます(1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日までの方が対象)。詳細はお住まいの市町村にお問い合わせください。

### ♣ 小児科外来情報

#### 北部地区(矢追医院)

夏休みとなり、外来感染症もなつかげばかりである。今年は一時みられた手足口病はほぼなくなり、ヘルパンギーナといわゆるなつかぜの2疾患がほぼ半々でみられる。両者とも高熱が1-2日続く、頭痛や腹痛、嘔吐もみられる。他は水痘が流行している地域もある。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は夏休みに入って減少。  
 短期の発熱・軽度咽頭発赤の夏風邪が主。アデノ迅速陽性例はない。  
 ヘルパンギーナは小流行、それほど多くない。手足口病は見られない。  
 感染性胃腸炎は減少。嘔吐例もあるが重症例はない。  
 その他の感染症は少ない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

ヘルパンギーナの流行は細くも減少傾向。咽頭結膜熱は散見。手足口病はほとんど流行していない。  
 夏カゼに伴う胃腸炎は病初期の嘔吐、回復期の下痢といった傾向がみられるが、いずれも食事・対症療法で軽快している。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 32 週 ( 8 月 4 日 ~ 8 月 10 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 定点把握(月報告)対象疾患報告状況(7月)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.88	(1.56)	→	→	↗	
2	ヘルパンギーナ	1.76	(2.68)	↓	↓	↓	
3	咽頭結膜熱	0.65	(0.68)	→	→	→	
4	A群溶連菌咽頭炎	0.62	(0.91)	→	→	↓	
5	水痘	0.59	(0.88)	→	→	→	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況

**ヘルパンギーナ**は先週より更に減少しました。県全体の警報は解除となりましたが、郡山保健所管内では未だに報告が多い状況です。  
 咽頭結膜熱は、ピークは過ぎています。例年よりも報告数がやや多いです。  
 県内で RS ウイルス感染症の報告が始まりました。近年では全国的に流行が早まっている傾向があります。奈良県でも、昨年、一昨年に季節外れの流行がみられました。  
 ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、RS ウイルス感染症は患者の飛沫(咳、くしゃみ、しぶき)や、接触(握手、タオルの共用等)により感染すると言われています。感染予防の基本は、手洗いが大切です。また、咳エチケットを心がけましょう。

### ♣ 小児科外来情報

#### 北部地区(矢追医院)

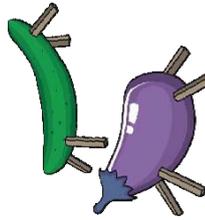
外来患者数は、8月に入り減り続けている。ヘルパンギーナ、プール熱、いわゆるなつかぜもわずかなどなっている。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は少ない。  
 夏風邪が少し。今夏はヘルパンギーナは少なかつた。感染性胃腸炎が僅か。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

夏カゼは減少。ヘルパンギーナや咽頭結膜熱も散見されるが患者数は少ない。寝冷えと思われる上気道炎や胃腸炎は増加したが、いずれも軽症であった。



# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 34 週 ( 8 月 18 日 ~ 8 月 24 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.94	(1.59) ↑	→	↑	↑
2	咽頭結膜熱	0.62	(0.79) ↓	→	→	→
3	ヘルパンギーナ	0.59	(1.00) ↓	→	→	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.35	(0.53) ↓	→	↓	→
5	水痘	0.29	(0.50) ↓	→	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶連菌咽頭炎の流行は、地域差はありますが減少傾向です。特に、ヘルパンギーナの報告数は最も多かった7月中旬の1割程になっています。

### ～戦後初のデング熱患者国内発生！～

- デング熱は、東南アジア等で流行しているウイルス疾患です。患者を吸血した蚊が他者を吸血することでウイルスが広がります。奈良県でも東南アジア等から帰国した人のデング熱感染者は毎年報告されています。今般、埼玉県在住の10歳代後半女性のデング熱感染が報告されました。この人は、渡航歴が無いため、国内で感染(海外で感染して帰国した人からの蚊を介しての二次感染)と考えられています。
- 予防・感染拡大防止のために、蚊に刺されないことが重要です。流行地域から帰国した人は、発熱などの症状が見られたら、蚊に刺されないように注意し、医療機関を受診してください。また、流行地域への渡航時は、長袖、長ズボンの着用や虫よけ剤を使用するなど工夫が必要です。

<参考>厚生労働省 HP デングウイルスについて

[http://www.mhlw.go.jp/bun/a/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue\\_fever.html](http://www.mhlw.go.jp/bun/a/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever.html)



### ❖ 小児科外来情報 ❖

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数はさらに減少している。お盆休みのため、感染症自体が殆どない状態です。目立ったものはなく、夏風邪が少しあるのみです。

#### 中部地区(岡本内科)子どもクリニック)

外来数は少ない。軽度の感冒がある程度。  
アデノウイルス陽性例が僅かにある。ヘルパンギーナは少ない。  
エンテロウイルスかと思われる軽症経過の感染性胃腸炎が僅かに流行。  
その他感染症は少ない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

夏カゼは減少。嘔吐や夏の疲れによる普通感冒がみられるのみ。  
水様下痢、嘔吐の家族がキャンプ地から受診するも、軽症で菌も検出なかった。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 36 週 ( 9 月 1 日 ~ 9 月 7 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題～RSウイルス感染症～

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.82	(1.71) ↑	→	→	↓
2	咽頭結膜熱	0.85	(0.74) ↑	↑	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(0.56) ↑	→	→	↑
4	水痘	0.47	(0.21) ↑	→	↑	↓
5	突発性発しん	0.38	(0.65) ↓	→	↑	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱の報告が増えています。今週は、内吉野保健所管内で急増したことも有り、県全体で増加しました。昨年末にも流行し、今年に入り落ち着いていましたが3月頃から多くなり、7月以降は、昨年と比較すると倍以上の報告数となっています。1～5歳の報告が多いです。

東京都代々木公園周辺で発生しているデング熱が、9日には千葉県で、東京を訪れていない方が感染している事が報告されました。千葉市内での感染が疑われており、ウイルスを保有している蚊が千葉県にもいたとも考えられます。

デング熱は38℃を超える突然の高熱で発症します。発熱中及び前後は血中にウイルス量が多くなり、その時期に蚊に刺されると、蚊にウイルスが伝搬します。その蚊が他の人を刺すことで、感染が広がります。日本にいる媒介蚊はヒトスジシマカとされており、成虫の寿命は30～40日、その間4～5回吸血するようです。またこのウイルスは、ヒト及び蚊の体内で増殖し、霊長類(ヒト・サル等)以外の動物では増殖しないとされています。まず、感染しないためには、蚊に刺されないようにすることが大切です。また、感染を拡げないためにも、蚊に刺されないことが重要です。なお、県内ではこれまで、国内で感染したと思われる患者報告はありません。

### ❖ 小児科外来情報 ❖

#### 北部地区(矢追医院)

北和地区外来情報は、夏休み前後で少ない。特に感染症はあまり目立ったものはなく、一部の保育園で咽頭結膜熱の流行がみられるが、ヘルパンギーナは減少した。7月に提出したヘルパンギーナの検体からはコクサッキーA2型が多かった。

#### 中部地区(岡本内科)子どもクリニック)

外来数はそう多くない。  
夏風邪が減少し軽度の感冒が主。今夏はヘルパンギーナは少なかった。  
感染性胃腸炎が少し。嘔吐より下痢が主の例が多い。  
他の登録の感染症は少ない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

咽頭結膜熱が増加。家族内感染し、大人も高熱がでた。ヘルパンギーナはほとんどみられなくなった。咳・熱の遷延する呼吸器感染症も増加し、数名は肺炎を併発するも炎症反応はあまり亢進していなかった。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 38 週 ( 9 月 15 日 ~ 9 月 21 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL.:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより ~ヒトヘルペスウイルス 3 型の流行について~

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.41	(1.65)	→	→	→
2	RSウイルス感染症	0.79	(0.47)	↑↑	↑↑	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.62)	→	→	→
3	突発性発しん	0.56	(0.35)	↑	→	→
5	水痘	0.35	(0.24)	→	↑↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症が今週も増加しています。8月末(第35週)から4週連続の増加です。患者は2歳未満が78%を占めています。大阪府や和歌山県でもRSウイルス感染症が多く報告されています。伝染性紅斑は両類が今週は、北部(奈良市・郡山保健所管内)で、伝染性紅斑が多く報告されました。伝染性紅斑は両類がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれます。両類が赤くなる7~10日くらい前に、微熱やかぜ症状などがみられ、この風邪症状の時期が最も感染力が強いとされます。両類が赤くなる頃には、感染力はほぼ無くなっています。原因ウイルスは、ヒトヘルペスウイルス B19 で、飛沫または接触感染でひろがります。  
 また、今週はインフルエンザの報告が1件ありました。例年、インフルエンザの本格的な流行は新年になってからですが、平成24年には9月に集団感染事例が発生したこともあり、基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけてください。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

朝晩が涼しくなり、咳鼻水のいわゆる風邪が増えている。季節の変わり目で喘息発作を伴う子どもも目立つ。対象の感染症はあまり無いが、奈良市西部地区でRSウイルス感染症ができています。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

朝晩が涼しくなり、咳鼻水のいわゆる風邪が増えている。季節の変わり目で喘息発作を伴う子どもも目立つ。対象の感染症はあまり無いが、奈良市西部地区でRSウイルス感染症ができています。  
 外来数は先週から急増。軽度の感冒から、アデノ様の咽頭発赤・高熱例などが多い。近幼稚園でRSの流行があり、当クリニックでも乳児のRS陽性例があった。他に4歳の胸膜炎・肺炎例があり紹介入院、原因については退院時返事待ちの状況。感染性胃腸炎の流行も少しずつ持続。軽症経過で口、ロタ様ではない。その他水痘があった。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

夏かぜはほとんどみられなくなつた。鼻汁・咳嗽を主とする上気道感染症は増加している。RSウイルス感染症まだ流行していない。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 40 週 ( 9 月 29 日 ~ 10 月 5 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL.:0744-47-3183

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位 5 疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.59	(2.06)	→	→	→
2	RSウイルス感染症	0.94	(0.56)	↑	↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.71	(0.71)	→	→	↑
4	突発性発しん	0.62	(0.62)	→	→	→
5	水痘	0.41	(0.50)	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告は、先週に引き続き葛城保健所と今週は新たに奈良市保健所からもありました。奈良市内の小学校でインフルエンザの集団発生による学級閉鎖がありました。当保健研究センターの検査の結果、A香港型であると確認しています。インフルエンザ定点当たり報告数は近畿で最多です。  
 RSウイルス感染症は先週からさらに増加しています。患者は3歳未満の子どもの90%以上を占めています。5週連続で例年より高いレベルで推移しています。大阪、兵庫、三重県でも多い状況です。これから寒さが増すとRSウイルスやインフルエンザが流行します。風邪をひいている人は周りの人に上げないようマスクを着用しましょう。人が多く集まる場所から帰った際には手洗い・うがいといった基本的対策を心がけて下さい。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

ヘルパンギーナなどの夏風邪は無く、気候の変わり目と台風の影響で喘息関連の来院が目立つが、それ以外目立った感染症はない。RSウイルス感染症もみられない。今週になって、インフルエンザA型の子がでてきている。症状は例年通りで高熱と咳と鼻水がある。一部の学校で学級閉鎖となっている。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は先週から急増。急増という程ではない。運動会前後で軽度の感冒の受診も多い。RS気管支炎もその増加はない。感染性胃腸炎もみられず。ロタウイルス様も見られない。流行性下痢炎、水痘、A群溶連菌感染症などが少しづつ見られる。インフルエンザはまたない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

軽症だが遷延する呼吸器感染症が多い。RSウイルス感染症と思われるものはあまりない。下痢主体の胃腸炎や水痘が散見された。



# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 42 週 ( 10 月 13 日 ~ 10 月 19 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより ~ 今年のRSウイルスの遺伝子型について ~
- 気になる話題 インフルエンザワクチンについて

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減 (前週)		
1	感染性胃腸炎	2.35	↗ (1.50)	↗	↗
2	A 群溶連菌咽頭炎	0.85	(0.44)	↗	↘
3	RS ウイルス感染症	0.79	(0.74)	→	↘
4	手足口病	0.65	(0.29)	↘	↗
4	突発性発しん	0.65	(0.32)	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

先週は、北部地域でノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生がありました。ノロウイルス感染症は患者の嘔吐物や便に含まれるウイルスが何らかの形で体内に入ることによって発症します。感染していても症状の少ない人や、症状が治まった人からも、便中にはウイルス排出が続きます。また、ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することもあります。便や嘔吐物を処理する人は、使い捨てのマスク、手袋を着用し、乾燥させないうちに封じ込めることが必要です。ノロウイルスにはアルコール消毒は効果が無く、次亜塩素酸を用いた消毒が効果的です。

RSウイルス感染症は先週から横ばいで推移しています。また、手足口病が桜井保健所管内において増加しており、患者は1~2歳の子どもの中心です。人が多く集まる場所から帰った際には、きちんと手洗いうがいをして家庭に感染症を持ち込まないように努めましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区 (矢追医院)

外来患者数は、水痘とインフルエンザ予防接種が増えているが、感染症はまだまだ少ない。一旦学級閉鎖もでたインフルエンザは、最近みあたらない。嘔吐と腹痛、下痢の感染性胃腸炎がそろそろ増えてきたようだ。RSウイルス感染症も地域によりでているが、それほど多くない模様である。

#### 中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。軽症の感冒が主。インフルエンザを疑う高熱例もなくまだ陽性例もない。感染性胃腸炎が少し。嘔吐例、下痢のみの例などあるがノロ、ロタ陽性例はない。一時RS例があったがその後増加しない。A 群溶連菌感染症が少し増加。登録疾患では少ないが経過がやや重いEBウイルス例があった。

#### 南部地区 (県立五條病院小児科)

遷延する呼吸器感染症が増加。インフルエンザやRSウイルス陽性例はでていない。軽症下痢の胃腸炎も増加してきているが、ノロウイルス様ではない。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 44 週 (10 月 27 日 ~ 11 月 2 日 )  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題 インフルエンザワクチンについて

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減 (前週)		
1	感染性胃腸炎	2.03	(1.65)	→	↗
2	手足口病	1.00	(0.68)	↗	→
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.97	(0.53)	↗	↗
4	RS ウイルス感染症	0.94	(0.59)	↗	↘
5	突発性発しん	0.50	(0.32)	→	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)  
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の定点当たりの報告数が先週と比較すると上昇していますが、本県と隣接する大阪府、京都府、三重県の患者数よりは少ない状態です。今後の動向が気になります。ノロウイルスは感染力がとて強く、アルコール消毒は効果が無く次亜塩素酸を用いた消毒が効果的です。予防対策について確認をしましょう。

インフルエンザは先週から横ばいですが、郡山、桜井、葛城保健所管内から報告がありました。RSウイルス感染症は、先週と比べ報告数が上昇しています。患者は2歳までの子どもが中心です。時季外れの手足口病が、桜井、葛城保健所管内で流行しています。原因ウイルスは飛沫感染や経口感染が主なものです。手洗いうがいをこまめにしましょう。朝晩の冷え込みが厳しく体調管理が難しい時期です。感染症の予防に努めましょう。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区 (矢追医院)

水痘とインフルエンザ予防接種で外来は多くなっているが、対象感染症はまだ少ない状態です。インフルエンザもその後ありません。寒くなってきましたがノロウイルスの胃腸炎もまだ無く、低気圧の通過で喘息が増えている程度です。RSウイルスもありません。

#### 中部地区 (岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。軽度の感冒が主。インフルエンザはまだない。乳児RSがあり、年長児でも疑い例がある。嘔吐のノロ様の感染性胃腸炎が少しある。ロタはまだない。その他、A 群溶連菌感染症が少し。

#### 南部地区 (県立五條病院小児科)

朝晩の気温の低下、空気の乾燥の影響で、咳や鼻汁を伴う呼吸器感染症が急増。40℃以上の高熱の気管支炎併発例もあり。また、下痢中心の胃腸炎も増えてきている。水痘、溶連菌感染症も散見される。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 46 週 (11 月 10 日～11 月 16 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 定点把握(月報告)対象疾患報告状況(10月)

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.62	(1.91)	↑↑	↑↑	↑	
2	RSウイルス感染症	1.21	(0.94)	↑	↑	↓	
3	A群溶連菌咽頭炎	1.12	(1.12)	→	→	→	
4	水痘	0.76	(0.50)	↑	↑↑	↑	
5	咽頭結膜熱	0.44	(0.21)	↑	↑↑	↓	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の定点当たり報告数が先週と比較すると倍以上に急増しています。特定の年齢層に偏っておらず、広範囲の年齢での患者報告があります。奈良市保健所管内の幼稚園でも集団感染がありました。隣接府県だけでなく本県での流行も本格的になってきています。今後の動向には注視する必要がありますと考えます。感染予防のためこれまでに以上に手洗い等に気を付けて下さい。ノロウイルスは感染力が非常に強いので、特に幼稚園や学校等の集団生活の場では特に基本的な感染症予防(手洗い・うがい)を心がけて下さい。

RSウイルス感染症、水痘、咽頭結膜熱もやや増加しています。インフルエンザも徐々にですが患者報告数の増加が見られます。A群溶連菌咽頭炎は横ばいでした。

桜井保健所管内での時季外れの手足口病は患者報告数の低下が見られ、少し落ち着きを見せてきました。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

外来は、相変わらず水痘とインフルエンザ予防接種が多いが、感染症はかぜ以外は少ない。感染性胃腸炎は市内の幼稚園でロタウイルスの集団感染がでたが、当院では成人で細菌性のものが殆どで小児は少ない。RSウイルス感染症が保育園児を中心に増えてきた。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はまだぞつ増加していない。  
発熱の例も軽度の感冒程度。  
嘔吐が主の感染性胃腸炎があり、ノロウイルス例も確認。  
感染力が強いのか、家族内全員の感染例も見られる。  
生後2カ月児の例もあつたが重症化せず経過。  
他に水痘が少し、  
11月19日、当院初のインフルエンザA陽性例がでました。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎が増加。嘔吐が中心ですが、下痢・発熱例もみられる。家族内感染が多く予防が重要です。  
小児例はありませんが、成人ではインフルエンザがみられました。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 48 週 (11 月 24 日～11 月 30 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## インフルエンザの流行が始まっています

インフルエンザの定点当たり報告数が、流行開始の目安となる「1」を超えました。今後の流行に備え、①手洗い・うがいの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。また、夜更かしはしないなど、体力維持にもご注意ください。

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	7.15	(4.94)	↑	↑	→	
2	インフルエンザ	2.67	(0.87)	↑↑	↑↑	↑↑	
3	RSウイルス感染症	1.06	(1.06)	→	→	→	
4	A群溶連菌咽頭炎	1.03	(1.29)	→	→	↓	
5	水痘	0.82	(0.74)	↑	↑	↑	

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **やや流行** **少し流行** (疾患毎に、基準値を定めています)  
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告数が急増しています。例年、12月中旬に流行始まりとなり、1月から増加してきますが、今年すでに流行が始まっています。定点当たり報告数では、近畿府県内で奈良県は飛び抜けて多く、今後の流行拡大が懸念されます。特に北部(奈良市・郡山保健所管内)が多く、次いで中部(桜井・葛城保健所管内)で、南部でも例年同様に多くなっており、県内全体で流行が始まっています。

人が多いところを通った後は、手洗い・うがいを心がけてください。通勤・通学で、学校・職場に着いたときにも、手洗いがいいの励行をお勧めします。

また、抗インフルエンザ薬の服用で、発熱など症状はすぐに治まりますが、ウイルスは残っており、熱が引いたからと言って外出するなどの感染を拡大させる(周りにうつす)こととなります。学校保健安全法では「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで」は、出席停止の目安とされています。すぐに解熱しても、発症してから5日は外出を控えてください。

このところ、9～14歳の患者が特に多くなっています。徐々に他の年齢へも流行が広がると思われますので、手洗いやうがい、マスク着用の感染予防を心がけてください。

### ◆ 小児科外来情報 ◆

#### 北部地区(矢追医院)

先々週よりロウウイルスの胃腸炎が保育園の幼児で増加している。症状は、1程度の嘔吐とその後の下痢があるが、例年通り軽症である。インフルエンザが先週より急激に増加した。迅速では全てA型で、症状は発熱と咳がある。こちらも例年通り小学校高学年以上成人に多い。

#### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加傾向。まだ急増と言っ程でない。  
インフルエンザは学童に散発程度。現在すべてA型。  
感染性胃腸炎はノロ様の嘔吐例が多い。ロタはない。  
A群溶連菌感染症が流行中。その他水痘が少し。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

胃腸炎は多いが、例年ほど増えてはいない。長引く咳・鼻汁も重症は少ない。  
インフルエンザは散発しているが急増する様子はまだない。  
保育所での水痘の流行は続いている。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 50 週 (12 月 8 日 ~ 12 月 14 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## インフルエンザ注意報発令中!

奈良県内全域でのインフルエンザの定点当たり報告数が、「10」を超え、注意報基準値を超えました。今後、さらに増加すると予想されます。感染拡大の防止のために①手洗い・うがい、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患)

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	14.15	(5.11)	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	7.18	(7.44)	↗	↗	↗
3	RS ウイルス感染症	2.85	(2.29)	↑	↑	↑↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.41	(1.79)	↗	↘	↘
5	手足口病	0.94	(0.76)	↑	↘	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況

先週に引き続き郡山、葛城、桜井保健所管内でも、インフルエンザ報告数が注意報基準値を超えました。奈良県内のインフルエンザの定点当たり報告数は先週から約3倍に増加しており、流行が著しく広がっています。広範囲の年齢層から報告がありますが、14歳以下が80%以上を占め、中でも5歳から8歳の子どもの増加が顕著です。近畿府県では奈良県の定点当たり報告数が飛び抜けて多く、さらなる感染拡大が懸念されます。

気温が下がりがり、空気が乾燥してくと感染症が広がります。加湿器の使用や基本的な感染症予防策、うがい、手洗い、咳エチケットを励行し、感染予防に努めましょう。

RSウイルス感染症の報告数も先週から更に増えています。患者は0歳から2歳の子どもの80%以上を占めています。奈良市、郡山、葛城、桜井保健所管内からの報告数も多く、今後とも注意が必要です。

### ♣ 小児科外来情報

#### 北部地区(矢追医院)

外来患者数は、インフルエンザの予防接種希望者と感染者が増えています。インフルエンザは迅速検査ではすべてA型で例年通り小学校高学年から中高生が主体で倍増しています。症状は例年通りで香港型は重症化しやういという通説どおりでは今のところありません。RSウイルス感染症も増加しています。保育園の2-3才当りの子どもが多いようです。感染性胃腸炎はノロウイルスと思われませんが、来院時は嘔吐腹痛で下痢が始まらないことが多いです。検査が出来ない状況です。症状はこちらも例年通り軽く1-2日で嘔吐は無くなり下痢のみとなるようです。季節外れの手足口病が増えています。口内炎と手足の発疹のみで発熱は無いようです。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は増加。高学年の学年を中心にインフルエンザが増加傾向。まだ一色という程でない。現在すべてA型。重症例はない。感染性胃腸炎はノロウイルス様の嘔吐例が多いが年齢の関係もあり検査実施陽性例は少ない。下痢を伴う例は少ない。今冬ロタはまだない。他に水痘、A群溶連菌感染症があるが、他の登録疾患はない。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎が流行中。A型のインフルエンザも増加してきました。また、RSウイルスによる気管支炎もみられる。水痘の流行は減少。

# 奈良県感染症情報

平成 26 年 第 52 週 (12 月 22 日 ~ 12 月 28 日)  
奈良県感染症情報センター (奈良県保健研究センター)  
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

## !!! インフルエンザ警報発令中!!!

奈良県内全域でのインフルエンザの定点当たり報告数が警報基準値「30」を越えました。終息基準値「10」を下回るまで、警報発令状態は続きます。また流行は継続することと思われるので、感染拡大の防止のために①手洗い・うがいの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

### ◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患)

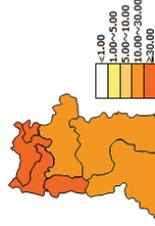
順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	31.69	(23.85)	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	6.03	(6.85)	→	→	↗
3	RS ウイルス感染症	2.74	(3.74)	↗	↗	↑↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.18	(1.24)	→	→	↘
5	水痘	0.79	(1.06)	→	→	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓↓**減少

### ◆ 県内概況

インフルエンザが警報開始基準値を越えました。特に郡山保健所管内では先週と比べ大幅に報告数が増えました。近畿では大阪府、兵庫県、奈良県が警報開始基準値を越えています。幅広い年齢層から報告があり、特に7歳から14歳の小中学生で多く見られます。

患者が増えていること、これからますます流行が拡大することが予想されます。人の多く集まる場所へ出かける場合はマスクの着用などで感染を予防し、帰宅した際にはうがい、手洗いを励行して周囲の人にも移さないように心がけましょう。



インフルエンザ 保健所別定点当たり報告数

### ♣ 小児科外来情報

#### 北部地区(矢追医院)

インフルエンザが大流行しています。全てA型です。今年は11月後半より流行し始めたので最初はすべて予防接種未接種者でしたが最近では既接種者それも10歳代以降の方が感染しています。毎年の事ですが、やはりインフルエンザの予防接種は感染を阻止するワクチンではないように思えます。乳幼児ではRSウイルス感染症が流行しています。感染性胃腸炎も流行していますが増える気配はありません。症状も例年同様さらさら軽症化しているようで1日程度の嘔吐と下痢がほとんどですが、嘔吐の無い例も迅速検査で陽性例がみられます。

#### 中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は増加。インフルエンザが増加。但し当クリニックではインフルエンザ一色という程ではない。すべてA型。比較的軽症で、感染力もそう強くないのか家族中に蔓延せずすむ例も多い。感染性胃腸炎がアフリカが多い。ワクチンの効果か今冬ロタは見られない。他に水痘が小流行中。

#### 南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザ急増。すべてA型でタミフル耐性と思われる例はない。またRSや胃腸炎も多くみられている。インフルエンザの重症例はないが、発熱初期の熱性痙攣が多く脳症との鑑別を要する。

次回の週報は、第1・2週合併号として、1月16日(金)に発行致します。